

■ 札幌市の将来交通に対する基本的な考え方と進行管理

「札幌市総合交通計画」では、『「暮らし」・「活力」・「環境」を重視する公共交通を軸とした交通体系の実現』を基本理念として掲げ、交通に関する様々な取組を行っております。また、今後10年間に行う主な交通施策を6つの基本方針ごとに体系化（パッケージ化）し、実施目標を掲げ、関連する交通施策・事業を位置付けるとともに、評価指標を設定することにより、効率的・効果的な事業展開を目指しています。

安全・安心なまちづくりパッケージ

実施目標① 災害に強い交通環境を実現するため、道路や橋りょう等の交通基盤の耐震化や適切な維持・保全を行うとともに、効果的な交通情報の提供等の取組を進めます

令和2年度の主な交通施策・事業

- ▶ 緊急輸送道路等における橋りょう4橋の耐震補強工事が完了しました。
- ▶ 地下鉄真駒内駅の耐震改修が完了したほか、地下鉄シェルターの耐震工事に着手しました。
- ▶ 福住・桑園通や環状通で道路の無電柱化工事を実施しました。

代表指標	算出方法	現況値 (2017年)	(2019年)	最新値 (2020年)	傾向※	目標値 (2030年)
緊急輸送道路等における橋りょうの耐震補強整備率	緊急輸送道路等における橋りょうの耐震化整備率を集計	74%	80%	82%		100%
無電柱化整備延長	無電柱化整備延長を算出	93km	97km	98km		119km

※目標値に対して概ね順調に整備が進んでいる。

実施目標② 一年を通じて誰もが安全・安心に移動できる交通環境を実現するため、交通施設や車両のバリアフリー化の取組を進めるとともに、道路の適切な利用環境の確保を図ります

令和2年度の主な交通施策・事業

- ▶ 西野白石線などの道路で歩道バリアフリー整備を約8km実施しました。
- ▶ 苗穂駅における南北駅前広場の整備が完了しました。

代表指標	算出方法	現況値 (2017年)	(2019年)	最新値 (2020年)	傾向※	目標値 (2030年)
歩道バリアフリー整備率	「新・札幌市バリアフリー基本構想」で設定されている生活関連経路の歩道バリアフリー整備率を集計	73%	80%	84%		100%
旅客施設のバリアフリー化整備率	利用者3,000人/日以上旅客施設（地下鉄駅、JR駅、バスターミナル）のバリアフリー化整備率を算出	86%	88%	88%		100%

※歩道バリアフリー整備は目標値に対して概ね順調に整備が進んでいる。旅客施設は、対象83施設に対して73施設が整備済となっており、目標値に向けて各施設の整備に向けた検討を進めている。

耐震改修が完了した地下鉄真駒内駅



完成した苗穂駅前広場



多様な暮らしパッケージ

実施目標① 自家用車に頼らなくても生活できる持続可能な地域交通環境を形成するため、バス路線の適切な維持に向けた取組などを進めるとともに、ICTを活用した交通情報の提供など公共交通の利用促進の取組を進めます

令和2年度の主な交通施策・事業

- ▶バス利用者の利便性向上として、さっぽろえきバスナビにバスロケーションシステム機能を追加しました。
- ▶清田区役所にデジタルサイネージのバス情報案内板とマルチチャージ機を設置しました。
- ▶バス路線の定時性確保を図るため新琴似3番通などで道路拡幅を実施しました。

代表指標	算出方法	現況値 (2017年)	(2018年)	最新値 (2019年)	傾向※	目標値 (2030年)
公共交通利用者割合	地下鉄、JR、バス、路面電車、タクシーの利用者数を人口で除して算出	67.1%	66.6%	64.8%		現況より増加

※2019年度末より新型コロナウイルス感染症の影響を受け、公共交通利用者数は減少している。2019年度は主に地下鉄、バス、タクシーが減少。2020年度以降は更なる減少が見込まれる。

実施目標② 地域の豊かな生活を支える中心的な役割を担う拠点を形成するため、民間の開発やまちづくりの機会を捉え、安全で快適な歩行環境の確保や乗継・移動環境の向上に向けた取組を進めます

令和2年度の主な交通施策・事業

- ▶篠路駅周辺地区整備（連続立体交差事業、土地地区画整理事業等）が事業認可されました。
- ▶新さっぽろ駅周辺地区の民間開発で整備される空中歩廊・地下接続する建物について詳細設計が実施されました。

代表指標	算出方法	現況値 (2017年)	(2019年)	最新値 (2020年)	傾向※	目標値 (2030年)
拠点における駅乗車人員	地域交流拠点の地下鉄、JR駅の乗車人員を算出	238千人/日	233千人/日	172千人/日		現況より増加

※新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各駅で乗車人員が大きく減少している。

さっぽろえきバスナビのバスロケーション情報

新札幌線[1]
JR札幌駅行
*参考情報としてご利用ください。
13:43 (定刻)
13:47 (予測)
現在 約4分遅れで運行中

13:08 (13:12) 釣橋
13:10 (13:14) 北星大学通
13:11 (13:15) 流通センター通
13:14 (13:18) 下白石
13:15 (13:19) 白石神社前

新さっぽろ駅周辺地区（I街区）で整備される空中歩廊のイメージパース



※計画地及び周辺建物の形状は設計図書を基に描き起したものにCG加工を施したもので、実際とは多少異なる場合があります。形状、仕様、外構等については、変更が生じる場合がありますので予めご了承ください。

都心まちづくりパッケージ

実施目標① 人を中心とした安全で快適な交通環境を創出するため、誰もが快適に通行できる歩行空間を形成するとともに、自転車や公共交通等による回遊性向上に向けた取組を進めます

令和2年度の主な交通施策・事業

- ▶札幌駅前通公共地下歩道（チ・カ・ホ）及び札幌駅前通地下歩道（ポールタウン通路）において、沿道ビルとの地下接続が行われました。
- ▶西7丁目線など都心部の自転車通行位置の明確化を行いました。
- ▶ポロクルが24時間営業となりました。

代表指標	算出方法	現況値 (2017年)	(2019年)	最新値 (2020年)	傾向※	目標値 (2030年)
都心の歩行者交通量	都心の主要地点における歩行者交通量を集計	175百人/日	173百人/日	136百人/日		現況より増加
地下接続しているビル数	都心部において地下歩行空間と接続し、段差なく利用できるビル数	36箇所	39箇所	41箇所		45箇所

※新型コロナウイルス感染症の影響により、都心の歩行者量は大きく減少している。

※2020年度には大同生命ビル、ザノット札幌において、地下接続されました。

実施目標② 誰もが都心にアクセスできる利便性の高い交通ネットワークを形成するため、公共交通の利便性向上や交通結節機能の強化を図るとともに、都心と高速道路とのアクセス機能強化の検討を進めます

令和2年度の主な交通施策・事業

- ▶都心アクセス道路（創成川通：地下整備）に係る都市計画変更を行いました。
- ▶路面電車の低床車両を2両導入しました。

代表指標	算出方法	現況値 (2017年)	(2019年)	最新値 (2020年)	傾向※	目標値 (2030年)
都心における駅乗車人員	都心駅（JR札幌駅、地下鉄さっぽろ駅・大通駅）の乗車人員を算出	270千人/日	266千人/日	179千人/日		現況より増加

※新型コロナウイルス感染症の影響により、各駅の乗車人員が大きく減少している。

札幌駅前通公共地下歩道（チ・カ・ホ）と沿道ビルとの地下接続



令和2年度に導入したシリウス（1100形1104号車）



観光まちづくりパッケージ

実施目標①	国内外から訪れる観光客の滞在・周遊・再訪を促進するため、都心から観光施設へのアクセス向上など、観光客の受入環境向上の取組を進めます
--------------	---

令和2年度の主な交通施策・事業

▶新型コロナウイルス感染症の影響により観光客が大幅に減少したところですが、需要の回復に対応できるよう観光バス乗降場・暫定駐車場の運営を継続しています。

代表指標	算出方法	現況値 (2017年)	(2019年)	最新値 (2020年)	傾向※	目標値 (2030年)
札幌観光の満足度 (観光スポットへのアクセス)	観光客の満足度を集計	80.0%	78.0%	76.3%		現況より増加
札幌観光の不満足度 (観光スポットへのアクセス)	観光客の不満足度を集計	13.9%	14.5%	12.8%		現況より減少

※満足度の低い理由として、公共交通で行けるところが限られること、観光スポットまでの移動に時間が掛かることなどが挙げられている。

実施目標②	国内外から訪れる観光客などに分かりやすい交通情報を提供するため、案内表示の多言語化等による利便性向上の取組を進めます
--------------	--

令和2年度の主な交通施策・事業

- ▶地下鉄駅の利便性向上のため、12駅で多言語ホーム案内表示の設置、3駅でトイレの洋式化等整備などの取組を実施しました。
- ▶SAPICAのIC入金機27台を多言語化に改修しました。
- ▶デジタルサイネージによる観光案内板（総合案内板）を札幌駅前通公共地下歩道（チ・カ・ホ）などに5台増設しました。

代表指標	算出方法	現況値 (2017年)	(2019年)	(2020年)	傾向※	目標値 (2030年)
公共交通機関（地下鉄）を利用した観光客の割合（札幌滞在中の移動手段）	公共交通機関（地下鉄）を利用した割合を算出	37.6%	—	—	不明	現況より増加
公共交通機関（路線バス）を利用した観光客の割合（札幌滞在中の移動手段）	公共交通機関（路線バス）を利用した割合を算出	22.5%	—	—	不明	現況より増加
公共交通機関（路面電車）を利用した観光客の割合（札幌滞在中の移動手段）	公共交通機関（路面電車）を利用した割合を算出	10.7%	—	—	不明	現況より増加

※2018年・2019年・2020年は調査未実施。



大通東2丁目観光バス暫定駐車場



多言語化したIC入金機

広域連携パッケージ

実施目標① 道内の主要都市や観光地のほか国内外の地域と道央都市圏をつなぎ、人や物の移動の円滑化を図るため、札幌駅交流拠点等の交通結節点や丘珠空港の機能強化などの取組を進めます

令和2年度の主な交通施策・事業

- ▶丘珠空港へのアクセス向上のため、空港連絡バスの利便性向上の取組を進めました。
- ▶北海道新幹線札幌延伸に向けたJR札幌駅改修工事が着手されました。

代表指標	算出方法	現況値 (2017年)	(2019年)	最新値 (2020年)	傾向※	目標値 (2030年)
JR札幌駅における乗車人員	JR札幌駅における乗車人員を算出	99千人/日	98千人/日	65千人/日		現況より増加
新千歳空港駅における乗車人員	新千歳空港駅における乗車人員を算出	17千人/日	18千人/日	7千人/日		現況より増加
丘珠空港における利用者数	丘珠空港における利用者数を算出	251千人/年	267千人/年	162千人/年		現況より増加

※新型コロナウイルス感染症の影響により、各施設で乗車人員、利用者数が大きく減少している。

実施目標② 周辺都市と市内の拠点相互が有機的に連結し、物流や緊急車両走行の円滑化を図るため、都心アクセス道路の検討など、骨格道路の機能強化に向けた取組を進めます

令和2年度の主な交通施策・事業

- ▶都心アクセス道路（創成川通：地下整備）に係る都市計画変更を行いました。（再掲）
- ▶連携道路である屯田・茨戸通、環状道路である環状通、放射道路である国道230号の整備を進めています。

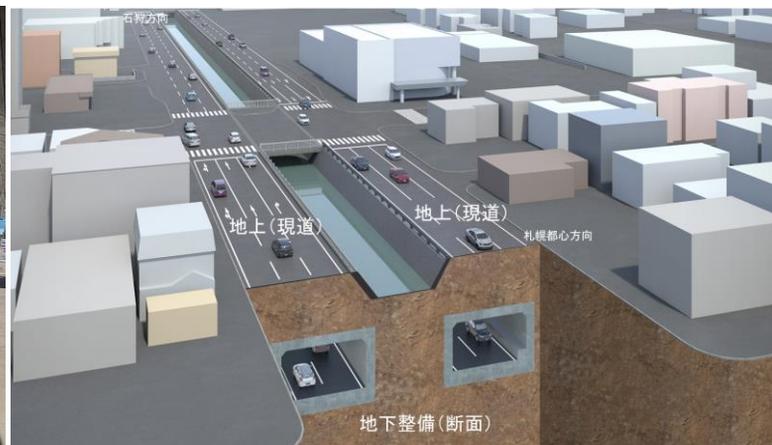
代表指標	算出方法	現況値 (2015年)	(2019年)	(2020年)	傾向※	目標値 (2030年)
主要拠点間のアクセス時間	都心と新千歳空港間（札幌北1C経由）のアクセス時間を集計	55分	—	—	不明	現況より短縮

※全国道路・街路交通情勢調査（概ね5年に一度の調査、次回調査はR3年度予定）により算出される評価指標

丘珠空港連絡バス



都心アクセス道路の整備イメージ



環境負荷低減促進パッケージ

実施目標①	自動車から公共交通機関への転換を促し、環境負荷の低減につなげるため、公共交通の利用促進の取組を進めます					
令和2年度の主な交通施策・事業						
▶路面電車1日乗車券の通年販売を開始しました。 ▶地下鉄・路面電車における同伴幼児の無料人数を拡大しました。 ▶さっぽろえきバスナビにバスロケーションシステム機能を追加しました。（再掲）						
代表指標	算出方法	現況値 (2017年)	(2019年)	最新値 (2020年)	傾向※	目標値 (2030年)
公共交通に対する満足度	市民の満足度を集計	64.3%	67.3%	64.9%		現況より増加
公共交通に対する不満足度	市民の不満足度を集計	16.6%	12.7%	19.6%		現況より減少
※満足度は、現況値と比較し増加している。 ※不満足度は、現況値と比較し増加している。						

実施目標②	自動車のCO2排出量の削減を目指し、渋滞緩和対策による交通円滑化等の取組を進めるとともに、次世代自動車の普及促進を図ります					
令和2年度の主な交通施策・事業						
▶交通円滑化を図るため、西5丁目・樽川通などの道路拡幅や北野通と白石・藻岩通の交差点などの改良を実施しました。 ▶次世代自動車等の普及促進のため補助を実施しました。（次世代自動車55台、V2H充電設備19台）						
代表指標	算出方法	現況値 (2017年)	(2019年)	最新値 (2020年)	傾向※	目標値 (2030年)
市内CO2排出量（運輸部門）	札幌市全体のCO2排出量（運輸部門）を集計	263万 t	258万 t	—		194万 t
次世代自動車の導入台数	次世代自動車の導入台数を算出	11万台	15万台	19万台		31万台
※目標値に対して概ね順調に推移している。						

路面電車1日乗車券



※モバイル乗車券

北野通と白石・藻岩通の交差点 （拡幅により右折レーン設置）

